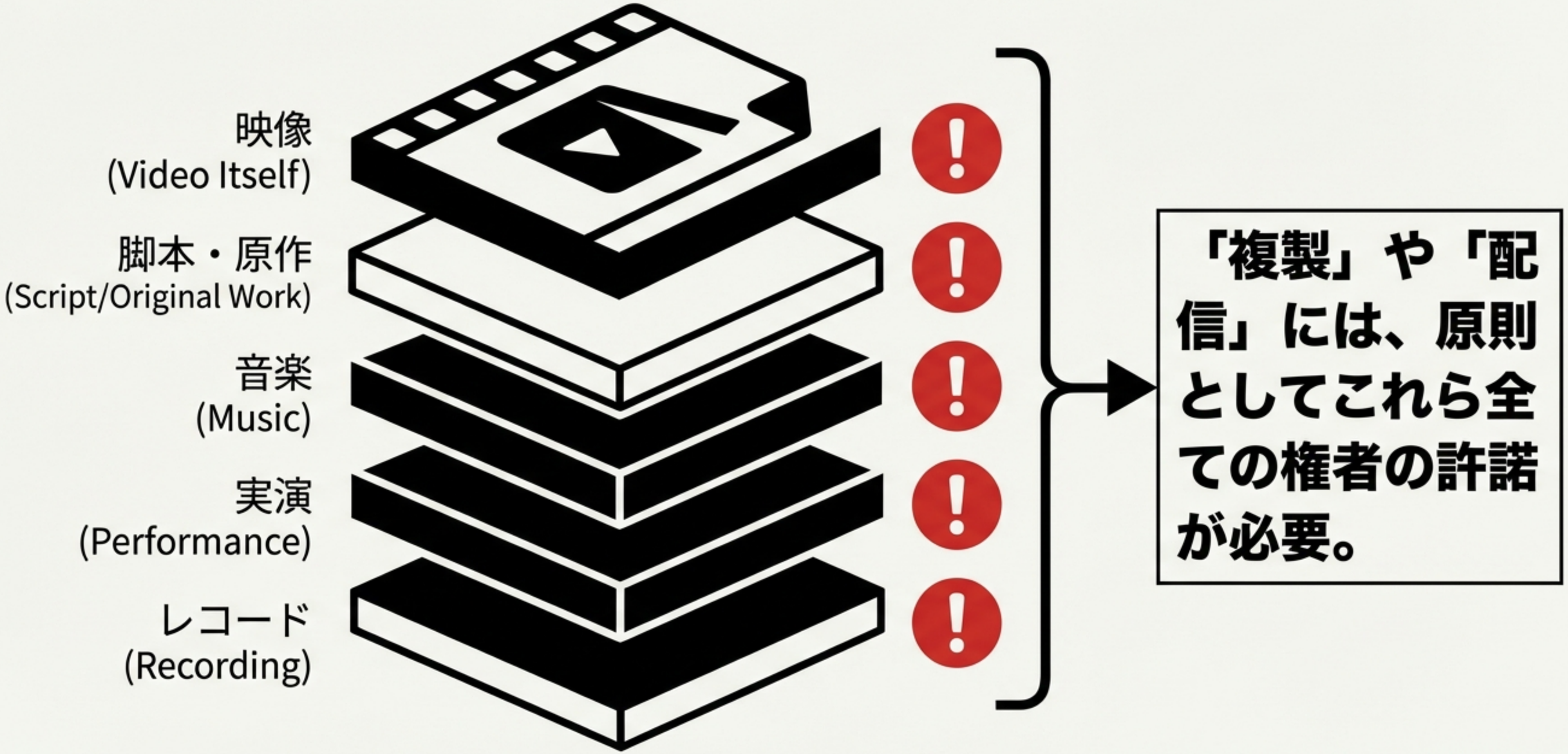
デジタルアーカイブと法制度の現在地点

権利の「壁」を乗り越えるための法改正・ガイドライン・未来への提言

福井健策（骨董通り法律事務所パートナー弁護士）
講義「第12講」より

NotebookLM

映像アーカイブの複雑性：多層的な権利構造



NotebookLM

アーカイブを動かす2つのエンジン：許諾と非許諾

許諾 (Permission)

定義: 権利者を探し出し、契約を結ぶ

メリット: 商用利用が可能

デメリット: 手間とコストがかかる

非許諾 (Non-Permission)

定義: 著作権法の「例外規定」を活用する

メリット: 権利者の許可不要、連絡不要

デメリット: 利用範囲に制限あり

権利の「壁」を越えるため、近年は「緑（非許諾）」の領域が劇的に拡大している。

NotebookLM

2018年の突破口：所在検索サービス（著作権法47条の5）

「権利の壁」に風穴を開けた最重要改正

膨大な作品
（含：権利者不明）

デジタル化
（Green Action）

全文検索
データベース

検索結果
（User View）

権利処理なしで、作品の「発見」までは可能になった。

NotebookLM

2021年の進展：絶版等資料の個人送信

国立国会図書館（NDL）の機能拡張

対象：「市場で流通していない」絶版書籍など

可能になったこと：利用者個人への「全文」送信 ✓

事例：『クリスマス・キャロル』 (1967年 村山英太郎訳)

解説：原作者(ディケンズ)はPDだが、翻訳権は存続。
しかし絶版のため、権利処理なしで全文閲覧が可能。 ✓

※2022年からは図書館・博物館からの「メール送信（資料複写）」も可能に。

NotebookLM

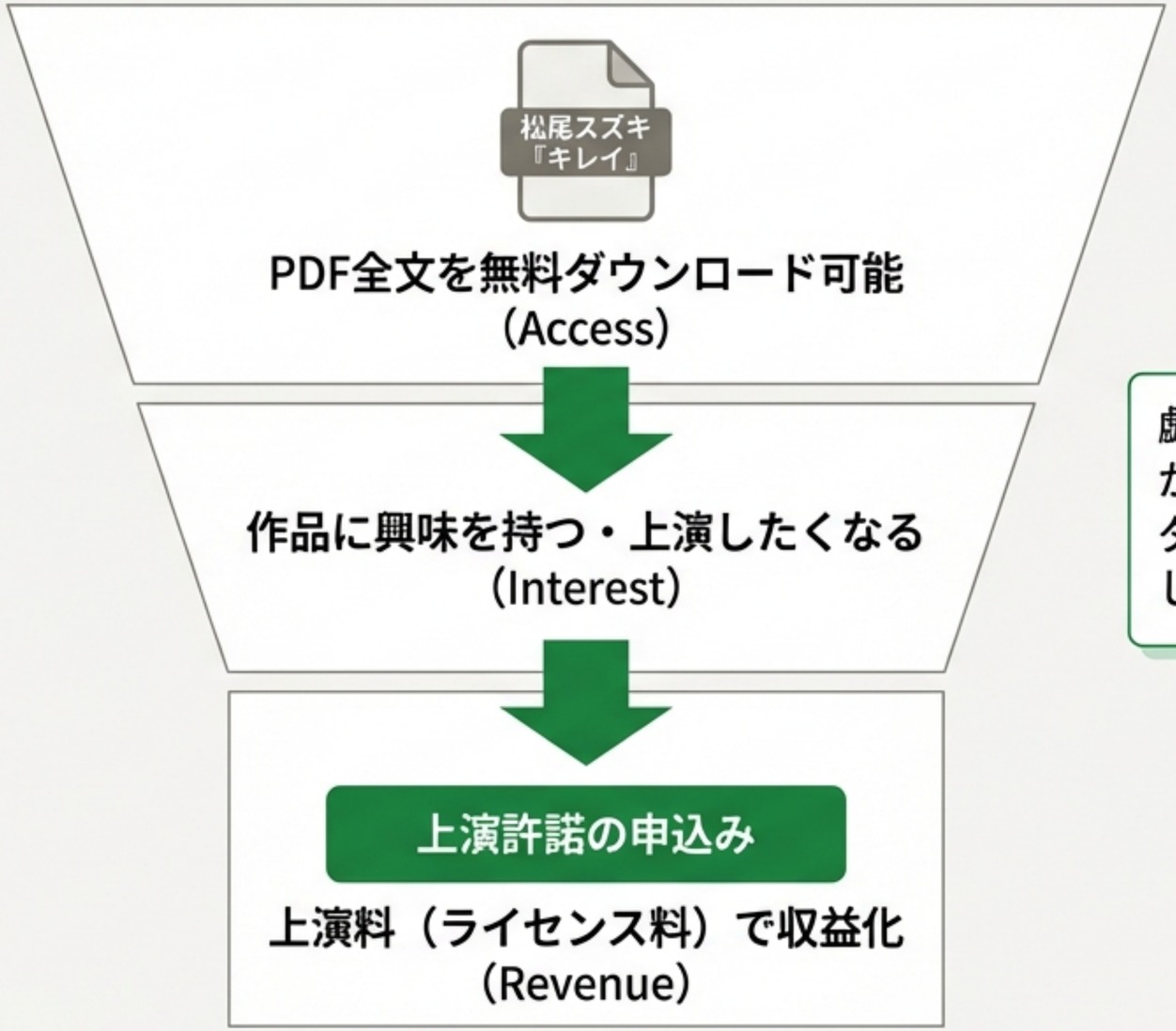
実践ケーススタディ：EPADのハイブリッド戦略

課題：1年で1,300本の舞台映像をアーカイブ化する（全件権利処理は不可能）

非許諾（保存）と許諾（ビジネス）を賢く使い分ける。

NotebookLM

「無料公開」をビジネスにつなげる：戯曲の逆転の発想



戯曲は「読んでもらう」ことが「上演」への最短ルート。ダウンロードは販促ツールとして機能する。

NotebookLM

第二の壁：「肖像権」の曖昧さ

著作権（Copyright）	肖像権（Portrait Rights）
• 根拠：成文法あり（明快） • 判断：フローチャートで可能 • 状態：白黒つけやすい	• 根拠：判例法のみ（明文規定なし） • 判断：「総合考慮」による受忍限度論 • 状態：曖昧なグレーゾーン

1万枚の写真アーカイブに対し、1枚ずつ「総合考慮」を行うことは実務上不可能。

NotebookLM

解決策：肖像権ガイドライン「ポイント制」の導入

公開しやすい要素（マイナス点）

- 公的人物（-10点）
- 公開の行事・公共空間
- 群衆・小さな扱い
- 撮影への黙示の同意

リスクが高い要素（プラス点）

- 私的空間
- 高露出度（水着など）
- 隠し撮り
- 営利目的

曖昧さを「点数」に変換し、専門家なしで公開判断を可能にする。

NotebookLM

法制度の未来：非許諾の拡大から「許諾の円滑化」へ

「非許諾（緑）」の拡大は国際条約上限界に近い。次は「許諾（赤）」の手続きを簡単にするフェーズへ。

集中管理の促進

JASRACモデルの
他分野展開

一元的な利用窓口

権利者と利用者の
マッチング

拡大集中許諾（ECL）

権利者不明でも時限的な
利用を可能に

新たな法制度により、許諾手続きのコストを大幅に削減し、著作物利用の円滑化を実現する。

NotebookLM

デジタルアーカイブ憲章：法を超えた羅針盤

記憶する権利（The Right to be Remembered）

「忘れられる権利」だけでなく、社会には記憶を継承する権利がある。

行動指針：データの信頼性確保と情報保障

知識基盤（Knowledge Infrastructure）

アーカイブは民主主義、イノベーション、防災のインフラである。

NotebookLM

提言：デジタル温故知新社会に向けて（2022）

1. **推進会議の設置**
   政府横断的な組織づくり
2. **地域サポートセンター**
   各都道府県に拠点を整備
3. **デジタルアーカイブ振興法**
   基本法の制定
4. **国立機関への配信拡大**
   NDLモデルを映画アーカイブ等へ
5. **人材育成・研究支援**
   アーキビストへの資金的支援

NotebookLM

結論：不可能な「壁」から、歩ける「地図」へ

制度は整いつつある。あとは我々がどう「活用」するかだ。

Presentation designed based on the insights of Kensaku Fukui. Noto Sans JP Regular.

NotebookLM